

書道よもやま話

2. 文房四宝

・文房四宝とは

筆、紙、硯、墨を文房四宝といい、古来、書をたしなむ人々が大切にしてきました。最近の良い墨液ができ、手軽に利用できることから、硯や墨に馴染む機会が少なくなってきましたが、書を親しむ人として一通りの知識を持つほうが良いと思います。

・筆について

毛筆は、毛の弾力を利用してボールペンやシャープペンシルではできない太い線、細い線を緩急自在に書くことができ、小さな字から箒のような筆を使った大きな字まで、幅広い表現を可能にします。使われる毛の材質により「羊毛筆」「馬毛筆」「鼬毛筆」「鶏毛筆」「孔雀筆」などさまざまな毛筆がありますが、漢字では柔軟で適度の腰がある「羊毛筆」が使われるのが普通です。仮名には羊毛に馬の毛を加えて、少し弾力性を持たせた「兼毛筆」がよく使われます。筆には数百円のものから一本数万円のものまでいろいろありますが、高価な筆が必ずしも優れた作品を生み出すものでもありません。とはいえ、高価な良い筆は筆に適した良い毛を集め、丁寧な作り方をしていますので、線質もよく長持ちします。初歩のうちにはそんなに高価なものは不要ですが、漢字用には2～3千円程度の羊毛筆、仮名には1～2千円程度の兼毛筆がお奨めです。

・紙について

紙は漢字用の少し厚手のものと、仮名用の薄くてにじみの少ないものがあります。紙には手作業で作られる「手漉き半紙」と機械で量産される「機械半紙」があります。機械半紙は安価ですが、表面がつるつるで墨の乗りが悪く薦められません。「手漉き半紙」も千枚あたり2千円程度から2万円以上までさまざまですが、芸術作品用に使うのであれば、消耗品なのであまり高価なものは不要です。私の場合は、漢字、仮名ともに1万円以下の手漉き半紙を使用し、別に2～3千円程度の漢字用紙を練習用に使っています。

書道作品として展覧会に出品する場合には、「半切」用紙を使用します。縦130cm、横35cm程度の大きさの紙で、これに漢字では1行もので5文字程度、2行ものでは10～14文字を書くのが普通です。仮名作品はこれに短歌や俳句を書きます。

・硯について

硯は国産でも「雨畑硯」など高価な硯もありますが、墨のおりが良くなく薦められません。実用的には、中国の「羅紋硯」が値段も手ごろで使いやすい硯です。芸術作品用には、少し高価ですが中国産の「端溪硯」が良いでしょう。硯の値段はきめの細かさや墨のおりの良し悪しといった実用面だけではなく、精巧な彫刻を施した観賞用のものがあり、これら観賞用には非常に高価な硯もあります。最近では良質な墨液が市販され、硯で墨をすることも少なくなりました。購入するなら、将来、半切作品を作ることを考えて少し大きめの羅紋硯がお奨めです。

・墨について

墨は植物油や「松やに」を不完全燃焼させた時にできる「すす」を集めて膠で固めて作ります。植物油のすすから作る墨を「油煙墨」、松やにのすすから作る墨を「松煙墨」といいます。深い黒色の「油煙墨」は漢字作品に、「青墨」ともいわれる青みがかかった色の「松煙墨」は仮名作品用に使用されるのが普通でしたが、最近では必ずしもそうではなく、漢字用に「松煙墨」を、仮名用に「油煙墨」を使う例も普通に見られるようです。

硯に向かって、良質の墨を磨りながら心を落ち着かせるひと時は、書道の醍醐味のひとつですが、忙しい現代人には不向きでもあります。最近では良質な墨液が市販されており、通常はこれを利用するほうがよいでしょう。特に漢字の半切作品などは多量の墨が必要ですので、墨液はとて重宝します。

・その他の文房必需品

書道を練習するためには、これら文房四宝のほかに文鎮、下敷き、水差し、筆巻きなどが必要です。どれも文房具店で購入できますので、お好みの物を揃えてください。練習場には筆以外の必需品を用意しますので、皆さんは筆とお手本をお持ち頂ければ

結構です。また筆や紙は練習場でお分けしますので、必要な場合は申し出てください。